

平成27年度 阿賀野市算数部 活動報告

部長 加藤 光

1 研究主題 「思考力・判断力・表現力を育てる算数の授業」

2 研究の概要

4月21日(火) 第1回部会 組織の構成、研究主題、事業計画の作成

6月26日(金) 第2回部会 研修会(講演会)

講師 田上町立田上小学校 教頭 平山 誠 様

11月24日(火) 第3回部会 研修会

模擬授業 6年「速さ」

授業者 阿賀野市立堀越小学校 立川 裕二 教諭



3 研究の実際

(1) 研修会(講演会)「思考力・判断力・表現力を育てる算数の授業」

思考力・判断力・表現力を育てる授業のポイント

- ① 学習の本質は、「覚えたことは忘れるが、考えたことは忘れない」
 - ・ 知識伝達型の一斉授業では児童の学力はのびない。思考を促す言語活動が必要になる。
 - ・ 分からないことを表現できる人間関係、学級風土が児童の言語活動を促す土台になる。
- ② 授業の7割を決めるのは、「課題の良し悪し」
 - ・ 問いが生まれるような課題設定を行う。
 - ・ 児童から生まれた問いを解決することが児童のめあてになる。
- ③ 一人もドロップアウトさせない「学習システム」の構築が必要
 - ・ 確かめたくなる状況を作る。児童から「なぜ? どうして?」という言葉を出させる。
 - ・ 全員が参加するような状況を作る。教室形態、発表形態の工夫。

(2) 研修会 模擬授業とファシリテーションによる協議

協議で話題に上がったこと

- ① 良かった点
 - ・ 単元を通して3つの速さを比べさせる課題を設定した。
 - ・ 「時速を秒速にしましょう。」と単刀直入に課題を出すのではなく、「3つの中で一番速いのはどれでしょう。」と出すことで、速さの単位を換算する必要性を認識させることができた。
 - ・ ホワイトボードを黒板に貼ることで多様な意見を全体に示すことができた。
- ② 改善点
 - ・ 速さの単位と長さの単位の両方の変換が必要であったため、低位の児童にとっては難しい課題になった。速さの単位の変換に焦点化するためにも、長さの単位の変換の仕方を教室の前面に示した方が良かった。
 - ・ 班の答えを一つにまとめることが大変だった。一人ひとりの考え方が違うため多様な意見を逆に絞ってしまうことになる。
- ③ 思考力・判断力・表現力を高めるのに有効な手立て
 - ・ 児童の「分からない」の質を見極めて、対応する。班の中の話し合いで解決できそうなのか、もう一度課題からかみくだいて全体に説明するかを考える。
 - ・ 自己解決の時間を設ける前に、課題の見通しをもたせる段階を丁寧に行う。

4 成果と課題

6月の研修会では「思考力・判断力・表現力を高めるためには言語活動を充実させ、児童が主体的に考える授業展開を想定すること」が最も大切である、ということを教えていただいた。また、児童の言語活動を促すには「分からない」ことを表現できる学級風土作りが最も大切であることを学んだ。11月の研修会では低位の児童でも、見通しをもって課題に取り組むには、課題把握の時間が大切であることを学んだ。

研究主題にある、「思考力・判断力・表現力」を高め合っている児童の具体的な姿が、曖昧なままで研修が進んでしまったことが課題となった。

